



国見小学校で昨年開催された宇宙・防災教室

「エネルギーやビタミンなど十分な栄養が摂取できる」という基本的な条件の他に「おいしく、飽きにくい」「アレルギーを含まない」「誤嚥を起こしにくい硬さ・形状」「流動食としても活用できる」といった課題もクリアする必要があります。また、備蓄食において「長期保存ができる」というのは欠かせない条件ですが、これを満たすためには一定割合以上の砂糖を使用する必要があります。菌を含む可能性の高い野菜などの素材は採用できません。こうした多くの条件を踏まえて、2年がかりで「果物を主原料とするゼリーにする」という結論にたどり着いたものの、さらなる課題が立ちの



国見町産りんごを使用した「参加型備蓄食」が誕生

新しい「防災のカタチ」

3・11の苦い経験が製品開発の原点に

株式会社ワンテールが製造・販売するゼリー型備蓄食『LIFE STOCK』のラインナップに今月、国見町産りんごを原材料とする新製品が加わりました（上段写真）。

町では、昨年10月に宇宙航空研究開発機構（JAXA）とワンテールが協働で企画・運営を行う「BOSAI SPACE FULFILMENT PROJECT」に



ワンテール CEO 島田 昌幸さん

2007年から国土交通省認定の観光地域プロデューサーとして活動し、数々の地域プロデュースを手がける。企業のイベント、商品・サービス開発、事業開発などのプロデュースも多数手がけ、2011年には中小企業初の日本CSR大賞準グランプリを受賞。

CT（BSFP）にパートナーとして参加しており、その取り組みの一環として誕生したのがこの新製品です。町の規格外品の農産物を活用し、備蓄食とすることで付加価値をつけて全国へ販売します。今回は、ワンテールCEO・島田さんに『LIFE STOCK』を開発するきっかけやその思いなどについて聞きました。

東日本大震災の発生直後から各地の避難所運営をサポートしていた同社が目当てに、CT（BSFP）にパートナーとして参加しており、その取り組みの一環として誕生したのがこの新製品です。町の規格外品の農産物を活用し、備蓄食とすることで付加価値をつけて全国へ販売します。



昨年10月、国見町のBSFP参加を発表

試行錯誤で到達したオンリーワンの品質

被災者の中には当然ながら、子どもや食物アレルギーを抱える人、それに高齢者や「胃ろう」でしか栄養を摂れない人もいます。そうした誰もが安心して利用できる備蓄食を開発するには

「研究機関で培養に使用される素材でもあるゼリーには、菌が増えやすい」という弱点があるのです。これを克服するために、私たちは無菌充填・4層包装・レシピコントロールという3つの技術を組み合わせ、『TOKINAX』という「充填技術ブランド」を生み出しました（同氏）。

「災害や防災というテーマはシリアスすぎて、子どもたちに興味を持つてもらいにくいんです。でも『災害時の厳しい環境は、実は宇宙空間と似ているんだよ』という切り口で伝えれば、みんなワクワクしながら学んでくれる。私たちは国見町でレシピ開発のワークショップなども行っていますが、これも同じ考え方

に基づくものです」。災害発生時に本当に必要とされるものを開発し、それが実際に活用されやすい関係性を地域の人々との間に構築し、さらに町の産業振興にも貢献する。：町とワンテールが手掛けるこの取り組みは、日本の防災のあり方を変えていくかもしれません。

地域のチカラを活用し、誰もが安心・安全に暮らせる町へ



国見町長 太田 久雄

町とワンテールは「地産地防」という防災理念を打ち出し、その理念を取り入れたものが今回のLIFE STOCKです。特産品のりんごを使用して防災力の向上を図る取り組みは、町の活性化にもつながるはず。この後は、桃でのチャレンジも控えています。完成した製品は町としても備蓄しますが、皆さまも備蓄して、ぜひご家庭の防災力を高めるきっかけとしてください。

防災・産業・組織・文化などあらゆる面で日本最先端の防災モデル地域となり、今後も町の安全・安心を実現できるよう努めて参ります。

町との絆も構築「参加型備蓄食」

「備蓄食がいざという時に真価を発揮するためには、生産者や消費者などに日頃から「意義あるもの」と感じてもらうことが大切」と考える島田さんは、『LIFE STOCK』を関わる人すべてに親しまれる「参加型備蓄食」とすることを目指しています。

そのための工夫の一つと

備蓄用ゼリー『LIFE STOCK』読売巨人軍コラボバージョン（りんご味）

国見町で生産されたりんごを使用。非常食としてはもちろん、子どもたちのおやつや高齢の方の介護食として日常的に活用することもできます。



読売巨人軍 菅野智之選手会長(投手) コメント

巨人軍と我々選手たちは社会貢献活動「G hands」に取り組んでいます。今回、防災備蓄ゼリーの開発に協力できることをうれしく思います。万が一を想定した準備が大切なことは、野球でも同じです。自分の身は自分で守る行動を起こすことが家族や大切な人たちも守ることができます。これを機に、少しでも多くの方が防災への意識を高めていただければ幸いです。“WITH FANS”、ともに乗り越えましょう。

9月下旬より順次発売開始予定!!

詳しくは、企画情報課総合政策室まで問い合わせください。

企画情報課総合政策室 ☎ 585-2217